

東京YMCA

8
2019年

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。



北京から90人 山中湖でキャンプ満喫

第4回となる「北京—東京YMCAパートナーシップ国際キャンプ」が7月22～25日、東京YMCA山中湖センターで開催され、北京の小学生81人と引率者計91人が来日。にほんご学院と流通経済大学の留学生および社会体育・保育専門学校生がリーダーをつとめ、富士山散策、野外料理、カヌーなど数々のプログラムを楽しみました。北京では日本のようなキャンプが開催されていないこともあり、この数年で「東京YMCAのキャンプは

楽しい」と評判が広まっているらしく、今年は過去最多の参加者数となりました。みんなが覚えた「ロックマイソウル」の声も日に日に大きくなり、キャンプの終わりにはみんなで歌い、国の違いを乗り越えて一つのファミリーとなることができました。このような楽しい交流活動を通じて草の根の平和運動を推進できることを願っています。

(山中湖センター 佐久間真人)

公益財団法人 東京YMCA 役員改選 新任多数

公益財団法人東京YMCAは6月21日の「定時評議員会」で、理事・監事・評議員の改選を行いました。今期は4年に一度の評議員改選の年で、また定年による退任が多かったことから、11人の新任者を選出するなど大幅な改選となりました。YMCAの意思決定を担う方々です。新任者はプロフィールもご紹介します。

▼評議員会は、事業内容や予算など法人全般にかかる決議権をもつ、いわば最高決議機関。理事・監事も評議員会が選任する。
▼理事会は、業務執行についての決定権のほか、代表理事等の選任や解職の決定権をもつ。理事の任期は2年、評議員は4年。再任は妨げないルールとなっている。

新任役員等紹介

- ①職業②所属教会
③YMCA関係

【理事】

蔵知 浩



- ①株式会社恵愛
②日本基督教団行人坂教会
③山手学舎出身、山手学舎運営委員、ミッション委員長

【業務執行理事】

秋田 正人



- ①公益財団法人東京YMCA
チャイルドケア事業部統括
②聖公会石橋聖トマス教会
③東京YMCA職員

【監事】

小町 正人



- ①社会保険労務士法人 礎
代表社員 ②日本ホーリネス
教団 東京聖書学院教会
③賛助会員

公益財団法人東京YMCA 役員一覧

*印は新任

【理事】(8名)

飯 靖子
神保 正男
三谷 高康
蔵知 浩*
菅谷 淳 (代表理事)
秋田正人 (業務執行理事)*
山添 仰 (業務執行理事)
星野太郎 (業務執行理事)

【監事】(2名)

小町 正人*
進藤 重光

【評議員】(17名)

青山 鉄兵*
伊藤 幾夫
上田 晶平
尾崎 久美子
小原 史奈子*
上條 直美*
古賀 博 (会長)

◇以下は退任者◇

宮内友彌 (理事)
若槻史郎 (理事)
並木信一 (監事)
上原靖弘 (評議員)
小原武夫 (評議員)
勝田正佳 (評議員)
久保田貞視 (評議員)
田中壽夫 (評議員)
山崎美貴子 (評議員)
山本 和 (評議員)

【評議員】

青山 鉄兵



- ①文教大学人間科学部准教授 国立青少年教育振興機構
客員研究員 ② ③野尻キャン
プリーダーO.B.、日本YM
CA同盟常議員・評議員他

小原 史奈子



- ①②
③会員部運営委員・東京たん
ぽぽYサービスクラブ

上條 直美



- ①日本YMCA同盟 職員
②日本基督教団紅葉坂教会
③東京YMCA元職員

東矢 高明



- ①特別区職員労働組合連合会
(特区連) 組織担当部長
②カトリック高円寺教会
③東北大学YMCA深木寮出
身、会員部運営委員

中村 基信



- ①社会福祉法人賛育会 常務
理事
②日本基督教団東京池袋教会
③東京YMCA元主事

西川 嗣夫



- ①公益財団法人早稲田奉仕園
理事、総務シニアマネージャ
②日本基督教団四街道教会
③元千葉YMCA日本語
講師

長谷川 康一



- ①Uji Path Japan CEO
②日本基督教団豊南坂教会
③山手学舎出身、山手学舎運
営委員

渡辺 誠二



- ①一般社団法人ロータリーの
友事務所 所長
②日本基督教団藤沢教会
③横浜YMCA元主事

赤△三角

江東YMCA
幼稚園は夏休
みに入り、い
つも賑やかな
園庭が静まり
返っている▼
1951年
(昭和26年)
に江東ブラン

チが開館し、幼稚園の前身である「東京YMCA育心保育園」が歩み始めた。1980年には学校法人を設立し、認可幼稚園となった▼当園は今も給食がなくお弁当持参。園バスもない。子どもの好きなお弁当を作り、子どもと一緒に自転車や徒歩で登園する。幼児期に愛情をたっぷり注ぎ、親子の時間を大切にしたい。保護者も行事での役割を担い、保護者同士も強い絆で結ばれてほしい。こんな、今の時代には敬遠されがちな伝統的なスタイルを、様々な思いと使命感を持って継承している▼創立からまもなく70周年。いつの時代も変わらずに、保護者、教諭、スタッフが顔の見える関係をつくり、日々子どもの成長を見守ってきた。卒園後も脈々と続くこのつながりは、地域の中に確かなネットワークを築いている▼高齢化が進む街。大型マンションの建設に伴い新しいファミリーが流入する街。地域の諸課題に対してもこのネットワークを活かして取り組み、共に未来ある街づくりをしていきたいと思います。(学校法人東京YMCA 統括 草分俊二)

日米高校生 交流キャンプ@山中湖



英語上級者対象 世界や自分を語り合う

日米の中高生が交流&ディスカッションをする機会を作りたいと、全国 Y M C A 英語教育担当者会の企画で7月13から15日の3日間、「YMCA International Youth Camp in 山中湖」が東京 Y M C A 山中湖センターで行われた。

来日したのは米国マサチューセッツ州のBecket Chimney Corners Y M C A の高校生15人。これまでも毎年7月に1カ月間、とちぎ Y M C A でボランティア活動などの研修を行っており、今年は期間中に日本の中高生との交流をしたいと、初のキャンプを企画した。主催は日本 Y M C A 同盟。東京 Y M C A が主管となり、とちぎ、横浜、埼玉のスタッフ・リーダーの協力も得て行われた。

日本側の参加対象者は「英検準2級以上」とし、キャンプアクティビティとディスカッションを交互に行ないながら、相互理解を深めていく形とした。初日はチームビルディングのゲーム、ハイキングの後、「仲間作りについて」についての話し合いを行った。「人は何をもって仲間と感じ、つながろうとするのか」。言葉、文化、人種、見かけなど様々な理由があるが、違っていると思っていても実は共通していたり、違いを認め合うことで世界が広がっていくことを学んだ。

2日目は国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」を見据えて、世界の食糧問題を理解し、自分たちができることについて話し合った。午後はカヌーや湖畔での交流プログラムを楽しんだ。キャンプファイヤーは雨のため、室内でのプログラムに変更したが、日米混合の4グループに分かれて、スタンツや歌を披露しあった。最終日は、個人的に、世界的に、文化的に、自分が今後何ができるかを考え、紙に書いて貼り出し、共有した。

短い期間ではあったが、YMCAのネットワークとキャンプのノウハウを活かした新しい中高生プログラムが生まれたことは嬉しい限りである。
(国際部統括 松本数実)

「保育園ねがい」 7月誕生

足かけ2年の準備と多くの期待を受けて7月1日、世田谷区船橋に認可保育園「Y M C A 保育園ねがい」が開園しました。



6月29日に行なった開所式には、世田谷区長の保坂展人さん始め近隣保育園の園長先生などが訪れ、たくさんの期待のメッセージをいただきました。定員79人のうち7月から10人、2歳児9人、3歳と5歳児各1人の計28

世田谷区にも認可保育園を新設

人の園児を迎えて保育をスタート。各クラスとも、園児（保護者）と保育者との関係作りが始まっています。

◇ ◇ ◇

保育者の顔をじつと見つめて満面の笑顔を振りまいてくれる0歳児は、時には思いっきり泣いて自己主張をすることもあります。ミルクが欲しいのか、オムツを取り換えてほしいのか、それとも眠たいのか？ 保育者はその主張内容をくみとるのに懸命です。

自分の意思を明確に主張し始める1歳児は、好きな絵本を取り出して保育者に読んでほしいと促したり、おもちゃの取り合いも始まっています。小さな願いが達成された

喜びの瞬間も増えてきています。

保育室を所狭しと走り回っている2歳児の中には、保護者がお迎えに来てもまだ遊び続けようとする子もいます。また保護者からの連絡帳には、「保育園で遊んだ様子を話してくれました」など家庭での様子が書かれていることもあります。

3歳と5歳の幼児2人は、広い保育室を一人占めして豊富な遊具で思いっきり遊んでいます。乳児の部屋にも、進出して、小さなお友だちと一緒に遊んだり、お世話してくれることもあります。

7月末には「クラス懇談会」を開催し、保護者に子どもたちの様子を伝えると共に、今年度の保育目標をお話ししました。また30日の降園時には、保護者・園児・保育者が自由に立ち寄れる「ホッとするコーヒールーム」を実施。保護者の子育ての情報を共有する時間を持ちました。

8月には新たに10人の入園が決まり、さらに活気があふれていきます。園児と保護者にとつて心地よい居場所となりたいと願う「保育園ねがい」は順調に滑り出し、その「ねがい」は少しずつ形になってきています。これから工夫を重ね、取り組むべき課題をきちんと見据えて尽力してまいります。

（Y M C A 保育園ねがい 園長 高橋里香）

子育てコラム



羽ばたけ、第三子

先日の東雲第三学童クラブのこと。2年生の男の子が、「先生と結婚式やりたい！」と提案してくれました。「いいよ。きちんと準備してね」と伝えた途端、周りの子どもたちが慌て始めました。「えっ？ 結婚

式やるの？ じゃあ花嫁さんはこれ持つて」と、公園で摘んできた花のブーケが私に手渡され、ピンクのビニール袋で作ったドレスを着せてもらい、おもちゃのネックレスまでつけてくれました。スまで着けてくれました。た。「指輪を作るから、アルミホイルとトイレットペーパーの芯が欲しい」と、みんなで材料を調達し、結婚式をサポートしてくれました。いよいよ結婚式が始まると、「世界一幸せになりますよ。世界一幸せになりますよ。なんて、半世紀近く生きてきた私も頂戴したことのない素晴らしい言葉

葉まで飛び出してきて、子どもたちが笑顔と大きな拍手で祝ってくれました。最前列の子は、「感動した！」と、泣き真似までしてくれました。このように第三学童クラブでは『やりたい！』と提案したことを戸惑うことなく実行に移すことが多くあります。代々自由な雰囲気が継承されてきているので、それが当たり前となっています。同時に、誰かの『やりたい』も認め、受け入れ、みんなが応援してくれ

どもたちのように、お互いのやりたいこと、表現したいことを認め合い、応援する社会になったら、世界はもっとより良いものになるのではないのでしょうか。だから私は願います。いつか東雲第三学童クラブの子どもたちが、ここを飛び立ち、東雲で、日本で、世界でお互いを認め合える社会を実現してくれることを。羽ばたけ第三子！

東雲第三学童クラブ 主任 鈴木 真理子



総主事カフェ

東京 Y M C A 総主事

菅谷 淳

総主事カフェにようこそ。突然ですが皆さん、「悩み」がありますか。恋愛や結婚のこと、仕事のこと、家庭のこと、人間関係や将来のことなど、大なり小なり誰にでも悩みはありますね。さてその悩み、皆さんはどのように解消していますか。スポーツをする。お酒を飲んでワイワイやる。何かに熱中する。人それぞれですね。本屋さんに行くときさままな悩みの解消、気が楽になる方法といった本が並んでいます。そこには「悩みには本当に悩むべき悩みと、悩まなくていい悩みとあって、9割以上が悩む必要がない悩みです」とか、「全ての人が好かれる必要はありません、10人いたら2人は自分を受け入

れてくれないと割り切れば楽になります」とか、「ネガティブな感情は自分で何とかできます。例えば夫婦喧嘩をしている最中に親友から電話があったら思わず話し込み、終わってから何に怒っていたか忘れてしまふ、これを自分で行うのです」などのアドバイスが並んでいます。それぞれ「なるほど」と思いますが、なんとなく小手先の手法のような気がして根本的な解決にならないように思っています。

かつてベストセラーになったステイブン・R・コビイの「7つの習慣」の中に次のような事例が紹介されていました。そこそこ混んでいる電車の中で兄弟と思われる子どもたちが騒いでいて周りは迷惑している。子どもたちが楽しく遊んでいる中にお父さんと思しき人がいるが注意しない。そこで一人の人がその人に声をかけた。「あなたのお子さんたちですか」「はい」「騒いでいてみな迷惑しています。注意してくれませんか」その人は言った。「あつ、はい。すみません。先ほど妻のお葬式を終えたばかりでボーとしていました。」それを聞いた乗客は皆、騒いでいる子どもたちが気にならなくなった、という話です。「うるさいなあ、何とかしてくれよ」という乗客たちの悩みが、相手の特別な事情（ストーリー）を理解し同情することで消えてなくなったのです。全く同じ状況でも「子どもたちのお母さんが亡くなった、そのことを知ら

ずに子どもたちが楽しく遊んでいる、かわいそうに。少しくらい騒がしくてもいいじゃないか」という気持ちに変わり、電車の中に蔓延していた悩みやイライラというネガティブな気持ちが許容、優しさ、愛というポジティブな気持ちに変化したのです。悩みを解消しようと一人であれこれ試すのではなく、大切な人に悩みを打ち明け、心から話を聞いてもらい共に考えることが重要です。そしてその大切な人になるこそこそが Y M C A の使命であり、個々の「ストーリー」を共有してつながり、社会全体をよくしていくことが、「ポジティブネット」をビジョンに掲げるブランディングの真の目的ではないでしょうか。

■世界各地で“175分間のボランティア” 「YMCA175周年 ワールド・チャレンジ」に



YMCAの誕生日である6月6日に、世界中のYMCAが共通のアクションをおこす「ワールド・チャレンジ」。175周年の今年は"Volunteerism(ボランティアイズム)"をテーマに、世界120の国と地域にあるYMCAが一斉にボランティア

活動を実施しました。ペンキ塗り、植木の手入れ、洗車、福祉施設訪問など各国各様の活動が行なわれた中、東京YMCAでは東陽町センターの学生や子どもたち、近隣企業の社員など132人が地域の清掃活動「クリーンウォーク」をしたほか、インターナショナルスクール(TYIS)の生徒たちがホームレス支援のNPOを訪問し食材を寄付しました。

■会員芸術祭

力作70点、東陽町センターを彩る



東京YMCAの会員・関係者や学生たちが趣味の絵画などを披露する「東京YMCA会員芸術祭」が今年もまた6月24日～29日、東陽町センターを会場に開催

され、47人と1グループが計70の作品を出展。今年は水彩画、油絵、陶芸、手芸作品のほか「シニアY・Y・Yキャンプ」による3.5メートルの巨大な書画(=写真上)や、にほんご学院留学生による写真など、ユニークかつ本格的な作品が並び、訪れた人たちを楽しませてくれました。会期に先立ち22日に開催されたオープニングセレモニーでは、菅谷功氏(新槐樹社準委員)から講評をいただいたほか、「ブアマナウクレレバンド(飯山満ウクレレ同好会)」が陽気な音楽を演奏してくださり、参加者も一緒に歌うなど、楽しいひと時を過ごしました。

開催に際しては、事前の準備から当日受付まで多くの方が協力くださったほか、留学生等の出展料として40,000円のご寄付もいただきました。ありがとうございました。

■水の事故から子どもを守る

ウォーターセーフティーキャンペーン



水の事故から子どもたちを守るため、全国のYMCAは今年も「ウォーターセーフティーキャンペーン」を開催。東京YMCAは6月16日、山手コミュニティーセンターとウエルネス東陽町の2か所で、幼児・小学生とその保護者たちを対象に着衣泳体験会を行なった

ほか、近隣の小学校で着衣泳の出前授業をしたり、ハンドブックを配布するなどし、水の事故から身を守る方法を広く地域に伝えました。

体験会ではまず、事故にあわないようにするための知識を紙芝居で学び、その後プールに服を着て入り、動きにくさや重さ、また海藻や波などさまざまな自然要因による歩きにくさなどを、親子で体験していただきました。また、溺れている人に浮き具を投げる練習や、水から引き上げることの難しさも体験しました。最新のハンドブック(全14ページ)は、以下からダウンロードできます。ぜひご活用の上、安全で楽しい夏休みをお過ごしください。

<http://tokyo.ymca.or.jp/wellness/watersafety.html>



スクールバスや教室内に不審者が現れたらどうするか……。昨今相次ぐ事件を受け、東陽町語学教育センターとウエルネス東陽町の教職員およびバス運転士など約30人が

東陽町センター教職員が安全訓練 不審者から子どもを守るため

7月3日、深川警察署に

とはまず距離を保つこと。身近な道具では最終的に撃退することはできないので、時間を稼いでいる間に子どもたちを避難させ、通報するなど、周りにいる人が役割分担をすること。大きな声を発することは、緊張で固くなった身体を緩め、相手を威嚇することもできるので有効であること等、重要なポイントを教

えていただきました。事務所内にいつも置いてある「さすまた」の正確な使い方も学びましたが、いざという時に実際に使えるようになるには定期的な練習を積む必要があるとのことでした。子どもたちの安全を守る立場にある者として、



戦前から開催している東京YMCAの月例講演会「午餐会(ごさんかい)」で6月17日、自ら「ゲイ(男性同性愛者)」であることをカミングアウトして牧師になった平良愛香さん(日本基督教団川和教会)を講師に招き、『性の豊かさをめぐる』をテーマに

平良愛香牧師が講演 LGBTを学ぶ

第728回
午餐会

平良さんは「同性愛は、性だけの問題ではなく人権の問題」とし、人権を守り差別をなくすためには「最低限の知識と想像力」が必要だと指摘。誤った知識や言葉で相手を傷つけることのないようにと、会場で「セクシュアリティについての用語集」を配布すると共に、言葉は使い方によって差別語に変化することや、当事者がそこ

実際のな動き方を学んだだけでなく、意識も高めることができた研修となりました。何も起きないことを願っていますが、

日頃の学びや訓練は今後も継続していきたいと思っています。(東陽町語学教育センター 愛洲久美子)

力の大切さにも言及されました。また「想像力」を働かせるには当事者の声を聴くことが有効だと、自身の経験を紹介。長年にわたり自分は異常だ、不良品だ、嫌われ者だと思いつながら生きてきたことや、命がけで隠してきたこと。その後、段階をふみながらカミングアウトし、同性愛者の人権のため、また孤立した同性愛者にエールを送るため、さらには性の多様さを伝えるために、果敢に活動するに至った半生が語られました。生産性や効率だけを求める社会は線引きを生み、排除が起きると訴え、講演の最後には、性的少数者の解放・共生を表す「レインボーフラッグ」を掲げ、人間の多様性の豊かさをアピールしました。(広報室)

東京-NY フロストバレー便り

毎年サマーキャンプの後で開催される大規模なファミリーキャンプで、私たち「東京-フロストバレーパートナーシップ」は1996年から日本文化の紹介を行なっている。伝統のあるキャンプで三世代にわたって参加している家族もある。1996年は、フロストバレーYMCA内に日本家屋「フレンドシップハウス」が建てられた年だ。1階は「Tatsuo Honma Culture Sharing Center」と名付けられ、その名の通り多くの人たちへの日本文化紹介の場として活用されてきた。現在のファミリーキャンプでは、1週間のキャンプ中に4～6回ほど日本文化のワークショップを実施しており、毎回満員御礼で大盛況だ。これまでに書道、華道、琴、そば打ち、紙漉きなど多様な日本文化を紹介してきた。

初代ディレクターの本間立夫氏には常々「本物の日本文化を体験してもらおうよう努めなさい」と教えられてきた。このような文化紹介のプログラムがフロストバレーをただのキャンプ場ではなく多様な文化を受け入れる魅力的な場になっているのだと思う。

また、この文化紹介のもう一つの魅力はボランティアの存在だ。初期の頃から、常に大人のボランティアの皆さんがこのプログラムを支えてくださっている。プログラム前には掃除をし、講師と打ち合わせや練習を重ね、本番では通訳などもしてプログラムがスムー



ズに進むようきめ細やかな配慮をしてくださる。彼女たちの存在は「日本らしさ」とは何なのかを改めて教えてくれる。フレンドシップハウスに入るだけで、ちゃんとする気持ちの良い空気が流れているのは、こうした小さなことを大切にしてきた皆さんの存在が大きいように思う。

今年は、新潟県在住の三味線奏者・小林史佳さんが演奏と指導の両方をしてくださる。小林さんは10月にカーネギーホールでのコンサートが控えており、すでに多くのアメリカ人参加者が楽しみにしている。

「日本文化を紹介したい」「指導したい」という方はいつでもご連絡ください。詳細はパートナーシップオフィスまで。

tokyopr@frostvalley.org

(在NY フロストバレーパートナーシップ 池田麻梨子)